

自由と自主性

会員 崎坂 美月

1 1年弱の修習を終え、2022年12月に弁護士登録し、弁護士1年目が終了した。

2 弁護士1年目はあっという間に過ぎ去り、最近は特に、優先順位を考え、何をいつどこまでやるべきか、を考える必要があり、案件が増えるごとに時間の使い方が一番難しいと感じる。

各案件の対応としては、文献等の調査をし、検討をすることになるが、業務内容として、家事事件から刑事事件まで様々取り扱っていることから、一つの案件を行っているわけではない以上、各分野、各法令について事細かに全体像を把握することは時間との関係でも非常に困難である。

メールでの相談案件が舞い込んでくれば、その都度、それにも対応する必要があり、関係する範囲について調査し、当該事案の検討をすることになる。そうすると、相談があった箇所やその周辺について知識が入ってくるのみであり、結局相談の度に調査し、検討する時間が必要になる。

これを繰り返していると、すべての分野について精通することは難しく、多大な時間と労力が必要になることは明らかである。

弁護士は、下積み時期が長いのが、経験を経たからと言ってすべての法律に長けるわけではない。新人弁護士から見れば、先輩弁護士は、ある程度なんでも適切に回答をしているように見えるが、これまでに培ってきた知識があり、また、年次が上がっても文献調査は行っている様子を見える。

勉強をせずに、経験が増えることのみで、適切な回答を短時間で出すことができるわけではないので

あるから、弁護士人生日々勉強、一生勉強、と度々感じ、また、これから勉強すべき範囲等が膨大で、いかに対応力をつけるかが重要であることを、日々思い知らされる。

3 また、事務所に入り、もうひとつ重要と感じたのは、発言力、説得力である。

弁護士である以上、当然依頼者との意思疎通等が必要になる。先輩弁護士についていると、各人スタイルは違うものの、やはり発言に説得力、重みがあり、相談に来た依頼者が納得して帰られていく様子を何度も見てきた。

各弁護士の話し方や雰囲気は全く違うが、聞いているといずれも説得的であり、話し方などの重要性を感じる。

話し方等は、場数を踏むことが重要であるところ、そうではないところで、何かできないかと考えると、やはり、自分の発言に責任を持つこと、そのために十分な知識や調査を行い自信をつけることが重要ではないか、と（今後違う視点が出てくるかもしれないが）現段階においては、そのように思い至ったところである。

4 今後の弁護士人生においても、個人事業主であり自由度が高い以上、より自分で自分の時間をコントロールしつつ、日々勉強することはもちろん、積極性をもって行動することが必要になってくると感じるが、弁護士1年目ではなかなかうまくコントロール等できていなかったこともあり、工夫し改善しつつ日々精進していきたい。